

### 本学小児歯科外来における刷掃指導の実際

○常岡亜矢, 長谷川浩三, 西口美由季, 堀内礼子,  
後藤讓治

(長大・歯・小児歯)

小児の齲蝕予防にはブラッシングが必要不可欠であり, 特に低年齢児に関しては保護者の役割も重要で, 本人及び保護者に対する刷掃指導が一般的に行われている。しかし, 手間と時間を要する割に効果が上がりにくく, その指導効果の継続が難しいのが現実である。また刷掃において重要な因子である刷掃圧については弱ければ歯垢清掃効果が悪く, 強ければ歯肉や歯周組織に為害作用がある。一般的に小児のスクラブ法による刷掃において中等度の硬さの歯ブラシを用いた場合, 最適刷掃力は300gであることが判明している。現在我々は, 小児に興味を持たせつつ容易に刷掃力の指導が行える刷掃訓練機<sup>1)</sup>を用いた刷掃指導を行っている。本システムはコンピュータに接続した歯ブラシを用いて刷掃を行うことによって刷掃力(刷掃圧)と刷掃回数, 刷掃時間等が画面に表示され, 最適な力での刷掃を指導することができ, この十分な歯垢清掃効果が得られる刷掃力を体験し, 身につけるのに効果的なシステムであると思われる。さらに, 歯垢の付着状況や磨き残しの部位, 刷掃効果を観察指導するためにデジタルカメラとコンピュータをオンライン化したシステムを用いている。本システムは刷掃指導前, 指導後の口腔内の状態を撮影し, データの保存と呼び出しが容易になり, 指導時に前回の口腔内の状態を示すことができる。両システムは口腔内清掃状態を客観的に明示できるため, 刷掃に対するモチベーションや, 刷掃指導効果の向上, その維持と定着のために活用している。

今回, これらのシステムを用いた本学小児歯科外来における刷掃指導の実際について報告する。

【文献】1) 長谷川浩三, 町田幸雄: 刷掃訓練機を用いた刷掃指導, デンタルダイヤモンド, 13;60-63, 1988.

ポリカーボネイトジメタクリレート(PCDMA)を主成分とするレジンインレーによる乳歯の審美的修復

○久保田一見, 後藤讓治, 春岡龍男\*, 松村実\*

長大・歯・小児歯, \*AIデンタルクリニック

【目的】近年乳歯の歯冠修復に, コンポジットレジン修復が多用されている。2級複雑窩洞へのレジン修復の応用は, 接触点の回復, 歯肉縁下の形態修正等の困難が指摘されている。そこで2級複雑窩洞にはレジンインレーも推奨されているが, 模型からの分離の困難, 分離時の破折等若干の問題が認められる。今回, 分離の容易な模型用シリコン“ダイシリコン”と強度の高いポリカーボネイトジメタクリレート(PCDMA)主体の硬質レジン“コンクエスト・サーモクリスタル”を用い, 乳歯のレジンインレー修復を行ったのでその詳細を報告する。

【材料および方法】窩洞形態は, Blackの形態に準ずるが, 全体的に丸味を持たせ, ラウンドエンドのダイヤモンドポイントを用いてアンダーカットがないように形成した。窩洞に窩縁斜面は付与せず, バット・ジョイントに形成した。次にアルジネートまたはアルジネートと寒天ハイドロコロイド印象材を用いて印象採得を行った後, 直ちにダイシリコン(マッハII, parkell today社)及びベース(ブルームース)をデイスパンサーで注入し作業用模型を作成した。模型の製作は6分以下で作業を終了することができた。次にコンポジットレジン“コンクエスト・サーモクリスタル”を模型上で築盛し, 可視光線照射器を用いて重合照射後, ホワイトポイント, シリコンポイント等にて形態修正, 研磨を行った。模型よりインレー体を撤去し, 加熱重合器を用いて107℃で15分間加熱した後, 研磨材を用いてつや出し, 仕上げを行った。合着にはレジンセメントを使用した。

【結果及び考察】1) 乳歯は歯質が菲薄なため, レジンインレーは, 模型からの分離時に破折しやすいが, ダイシリコンの応用により分離が容易であった。2) ポリカーボネイト主体の硬質レジンと, ダイシリコンの応用により審美的なレジンインレー修復が行えた。